

# みちに住まう、みちにある家



## 0 コンセプト

人が呼吸する対称が様々な物質が流れている空気であるならば、建築は多様なもので溢れかえる「みち」ではないだろうか。

人や動物、風や光、音や視線...

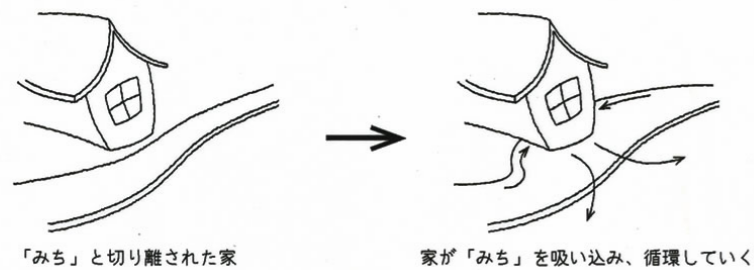
そんな「みち」を家が上手く吸い込むことができるなら、常に多様な因子で溢れかえり、普段の生活より豊かになるのではないか。

「みち」を吸い込み、「みち」に寄り添う家、あたかも「みち」の上にたっているような家を提案する。

街の生活インフラの延長としての「みち」を家の中に引き込み、屋根壁により「みち」の領域を家の内部まで拡張させる。

様々な抜けを介して取り込まれる光や風や雨、街のように様々な世代間での交流や活動は、「みち」からそのまま住戸内部へ浸透し、循環していく。

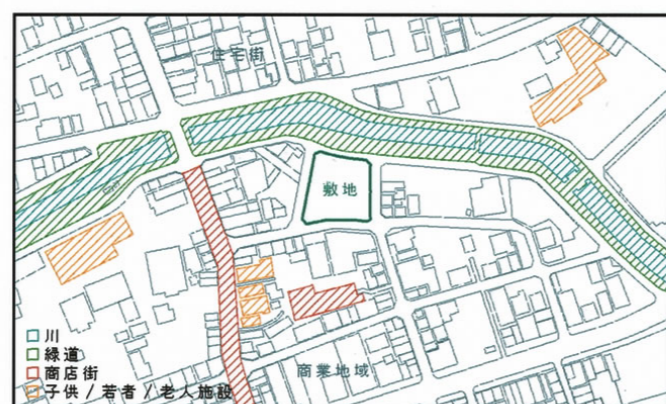
コンセプトイメージ



「みち」と切り離された家

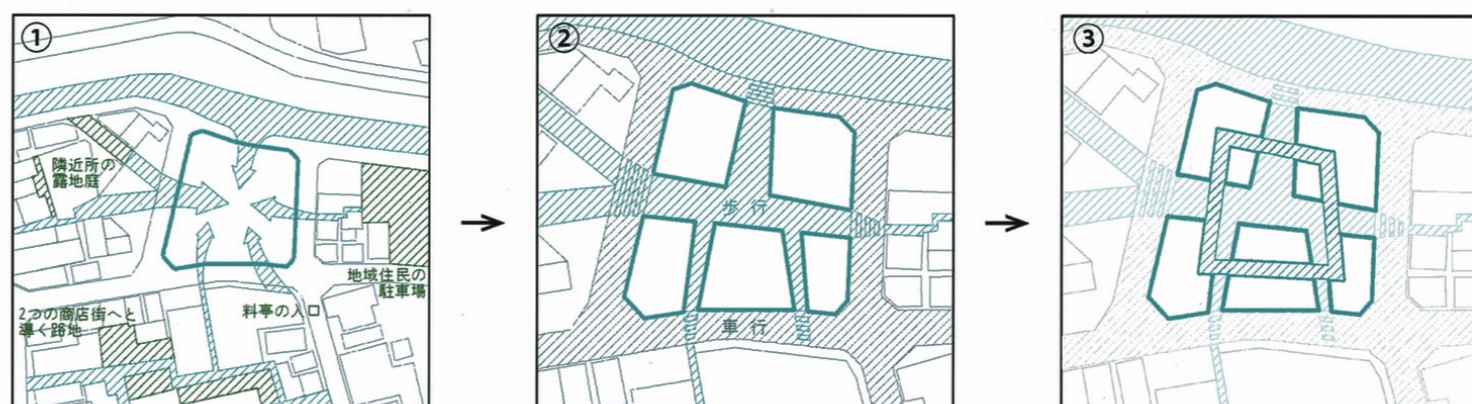
家が「みち」を吸い込み、循環していく

## 1 前橋市中心市街地



敷地は、群馬県前橋市の中心市街地の一角。北に水豊かな河川と自然豊かな緑道、西に商店街が位置する。周辺には老人ホーム、幼稚園、若者立ち上げの文化交流施設と幅広い年代の方の結節点である通り道であることが分かる。

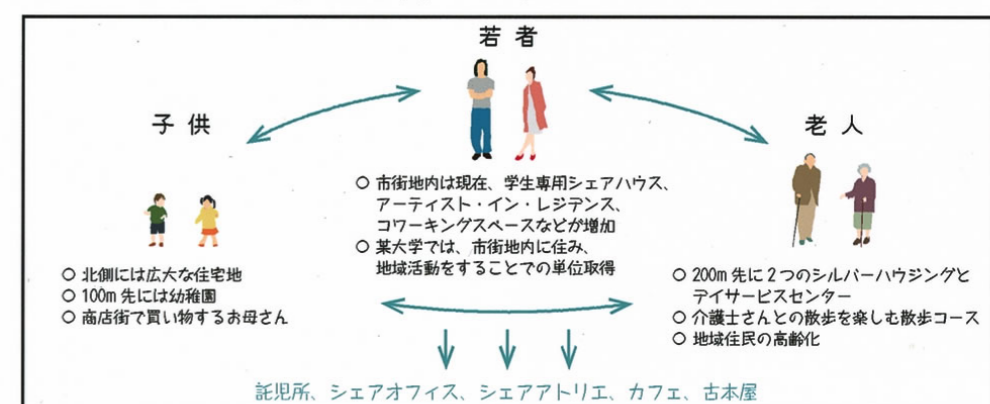
## 2 歩車分離により街の生活インフラの延長となる「みち」



建物の車道に対し街路のスケールが噛み合わないこの場所では、街路中心を貫く様々な路地が存在する。それらを拡張させ、家に「みち」を引き込む。

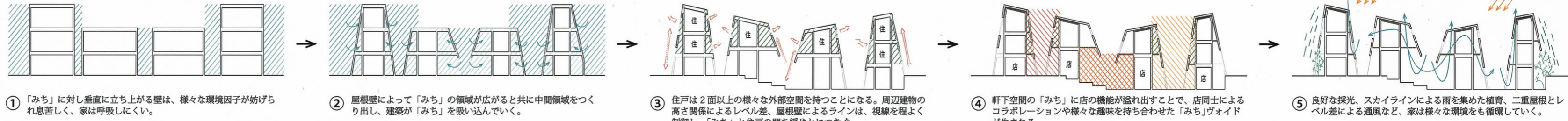
この場所では、歩道と車道は完全な意味で分離される。街の生活インフラの延長となる「みち」は、安全性を保ち豊かなものとなる。

## 3 ひとつの小さな街のように



周辺環境から、3つの世代を核とした繋がりや相乗効果を生むプログラムを配した店舗兼集合住宅の提案を行う。グランドレベルに上記のような機能を配置することで、様々な世代間による交流やコラボレーションが道に溢れ出る。また、それらがつくりだす風景は、ヒエラルキーを弱め、誰もが立ち寄りやすい「みち」となる。

## 4 屋根壁により家が「みち」を吸い込んでいく



① 「みち」に対し垂直に立ち上がる壁は、様々な環境因子が妨げられ息苦しく、家は呼吸しにくい。

② 屋根壁によって「みち」の領域が広がると共に中間領域をつくり出し、建築が「みち」を吸い込んでいく。

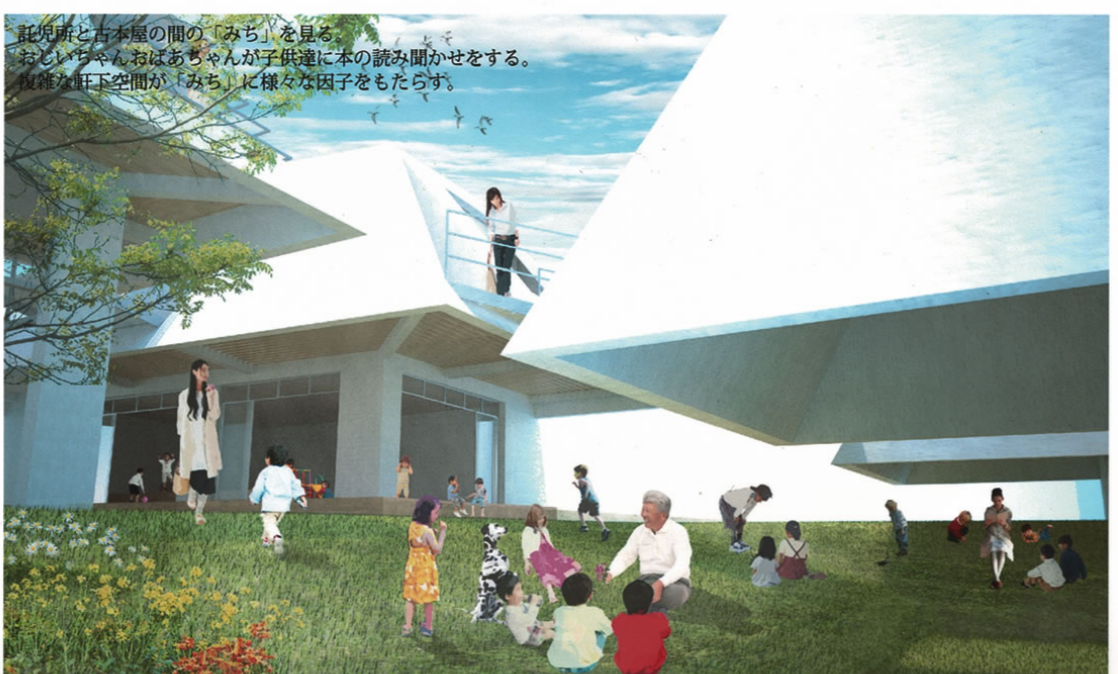
③ 住戸は2面以上の様々な外部空間を持つことになる。周辺建物の高さ関係によるレベル差、屋根壁によるラインは、視線を程よく制御し、「みち」と住戸の間を緩やかにつなぐ。

④ 軒下空間の「みち」に店の機能が溢れ出すことで、店同士によるコラボレーションや様々な趣味を持ち合わせた「みち」ヴォイドが生まれる。

⑤ 良好な採光、スカイラインによる雨を集めた植育、二重屋根とレベル差による通風など、家は様々な環境をも循環していく。



託児所とシェアアトリエの間の「みち」を見る。子供達がアート制作に参加する。ウッドデッキは住戸と「みち」を親やかに繋ぐ。



託児所と古本屋の間の「みち」を見る。おとしやさん、みちあちゃんが子供達に本の読み聞かせをする。高層な軒下空間が「みち」に様々な因子をもたらす。



1階古本屋の「みち」ヴォイドを見下ろす。本好きの人が集まるこの場所は、読書の風景が広がるかもしれない。



住戸内部の2つのテラスを見る。「みち」によってできる質の違う2つのテラスは、住人に様々な使い方を開く。